令和4年の終わりにあたって

12 月に入り急に寒波がやってまいりましたが、会員の先生方には寒さにもめげずお忙しくお過ごしの事と存じます。コロナも漸増しておりますが、重症化率、死亡率はインフルエンザなみに抑えられ、2 類から 5 類感染症への検討が始まったようです。

さて、日本臨床泌尿器科医会も役員の先生方の御努力、会員の先生方の御支援により順調に活動を続けております。以下、前回の「会長挨拶」以降の行事、取り組みについてご報告いたします。

2022 年 8 月 6 日と 8 月 7 日、日本泌尿器科学会の今後 4 年間の診療、研究、教育方針を議論し提言をする SD in JUA2022 が大阪で開催されました。野々村理事長のご依頼で、「保険関連知識の共有手段の構築」の班（8-2 班）に斎藤、正井副会長、岩佐専務理事、久保田、矢内原常務理事とともに参加致しました。8-1 班にも富士、山口理事が、9-3 班に新村理事が参加しました。内容ついては 11 月末にサプリメントが泌尿器科学会員の皆様に送付されていますのでご確認ください。

2022 年 10 月 27 日、全国医会代表者会議が web で開催されました。昨年は当会が世話役をしましたが、今年は日本臨床内科医会のお世話で 12 医会（公益法人 4、一般社団法人 4、その他 4）の代表者が 2 名ずつ参加しました。当会からは私と正井副会長が参加、日本医師会から釜萢常任理事が参加されました。各科の話題も出ましたが、共通の話題としてはやはりコロナによる診療への影響、オンライン診療の普及度、等が話し合われました。当会からは当会役員が「医薬経済」誌に連載している記事から医師の需給問題を取り上げ、釜萢先生にご意見を伺いましたが結論は出ませんでした。

これら 2 つの会議に参加して、高度の診療、研究、教育を議論する学会とは異なり、より社会に密接に繋がった一般診療の問題点を取り上げ日本医師会や国政に訴えていくところに全国医会の役割があると再認識しました。

2022 年 11 月 26 日夜、東京で常任理事会、11 月 27 日午前、理事会を開催しました。午後からは第 18 回臨床検討会が東京泌尿器科医会会長の長倉和彦先生を会長として開催されました。巴ひかる先生の座長で関戸哲利先生による「過活動膀胱ガイドライン」のランチョンセミナー、斎藤忠則先生の座長で古田昭先生、及川剛宏先生による「排尿ケア」の教育講演、佐藤威文先生の座長で田口彗先生による「限局性前立腺がんの治療方針」、林健二郎先生による「転移性前立腺がんの薬物療法」のイブニングセミナーが行われました。また一般演題 1 は中島耕一先生、2 は赤倉功一郎先生の座長で興味ある 1 例報告から、腎移植患者のコロナ感染例の報告、がん遺伝子パネル検査の現状と問題点、泌尿器科医の働き方改革の現状、泌尿器科保険収載のプロセス、など多岐の分野にわたる発表がありました。詳細についてはこのホームページに収載されている第 18 回臨床検討会プログラムをご覧下さい。

最後になりましたが当会作業部会の活動についてご報告します。
＊保険部会は富士、相澤理事が会員要望項目をまとめ外保連へ提出、全国社保國保泌尿器科審査委員懇談会の開催
＊広報部会は矢内原常務理事、賀屋理事がホームページ作成、会員管理の新たな取り組み
＊勤務医部会は久保田常務理事、高尾理事が泌尿器科勤務医の働き方改革に取り組んでいて全国アンケート集計をホームページで発表
＊学術部会は松村常務理事、山口理事が来年の学術講演会の準備　＊オフィスウロロジー部会は岩佐専務理事が来年の日泌での当会からのプログラム作成
＊医会連携部会は愛知県泌尿器科医会会長の服部理事、大阪泌尿器科臨床医会会長仲谷先生が、全国の 20 医会の活動状況を集積、今後の保険診療情報など

の意見交換会の web 開催　の活動をしています。

2018 年 2 月にほとんどの理事が泊まり込みで今後の日本臨床泌尿器科医会の方針について開催したワークショップで話しあったことが、法人化も含め少しずつ実行されてきております。
今後とも会員の皆様、それ以外の泌尿器科の先生方、泌尿器診療に御理解のある一般の皆様のご支援をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

令和 4 年 12 月 12 日
会長　清原久和